

ジャンルを問わず関西のおすすめ情報を紹介! Recommended information of the Kansai region of all genres!

# KANSAI EDITED



FLYING POSTMAN PRESS

## ロックロックこんにちは! Ver.18 ~市場ロック~



スピッツ

スピッツが企画する恒例イベントが9月25、26日の2日間に渡ってZepp Nambaで開催された。今回は18回目になんで、“市場(1・8)ロック”とサブタイトルされ、楽屋からの中継映像ではスピッツのメンバーが“ロック市場商店街”の店主に扮し、草野が和菓子屋、崎山がピザ屋、三輪が薬屋、田村がスポーツ店のコスプレで登場。“ロックロックこんにちは! 応援団”のFM802 DJ陣(中島ヒロト/加藤真樹子/飯室大吾)と共に各出演者と楽しいトークを繰り広げながら、全7組の熱気溢れる競演となった。

迫力あるオープニング映像が流れ、今年もついに“ロックロック”が開幕。ステージ上のビジョンにFM802 DJ陣(加藤真樹子/飯室大吾)とスピッツの草野&崎山が登場し、“ロック市場商店街”を盛り上げる“美味しいバンド”的なフリから、「めしあがれー!」の掛け声でライブに突入。口火を切ったふくろうずはひねりの利いた男女3ピース。可愛さの奥にエキセントリックさを秘めたボーカル、歪んだギターやストレンジな感覚を含んだ独特の世界観で引き込んでいった。ザ・ビートモーターズはテンポよく飛ばして熱気はグングン上昇。声を張り上げ全力で訴えかけるボーカルに身も心もかき立てられた。さらに、“ロックロック”18回目にしてついに初出演となったウルフルズが現れると場内全体が大興奮。のっけから国民的アンセム「ガッツだぜ!!」を投下すれば、みんなも拳を突き上げ一体化する。トータス松本、ウルフルケイスケ、ジョンBのトリプルボーカルで歌った「ワルツ!」。シンプルな言葉に歓喜の思いが詰まった「バンザイ〜好きでよかった〜」、そして、トータス松本がハーブを吹き鳴らしソウルフルに歌い上げるラストの「いい女」まで、パワー全開のパフォーマンスで観客を圧倒した。そしていよいよトリを務めるスピッツの登場で一際大きな歓声が沸き上がる。甘酸っぱい名曲「チェリー」から軽快な「スパイダー」と続き、極上のマイナスイオンが降り注ぐ。中盤には意外にも福山雅治のカバー「HELLO」をキャッチーに聴かせて盛り上がる。後半はアグレッシブに突き進み、ラストの「野生のボルカ」ではみんなが一斉に飛び跳ねてボルテージは最高潮に。アンコールの2曲はハードかつ爽やかなフレーバーで包み込んで、初日のライブはフィニッシュとなった。

## スピッツと共に集う18回目のロックイベント 今年“ロック市場商店街”で多彩な賑わいに!

# live report



三輪テツヤ

草野マサムネ

田村明浩

崎山龍男



ウルフルズ



ふくろうず



ザ・ビートモーターズ



Nothing's Carved In Stone



2日目も前日と同じ流れでFM802 DJ陣(中島ヒロト/加藤真樹子)とスピッツの草野&田村に、「レッツ・イート!」とコールされ、姉妹ユニットのチャラン・ポ・ランタンからスタート。この日は3人のホーン隊を含む7人編成で楽団のような雰囲気。ボーカル・ももは1曲目から積極的に観客を煽り、コミカルな調子で歌う「スーダラ節」が飛び出すなど、強烈な個性を印象づける。一転してワイルドに音圧を上げて突入したNothing's Carved In Stone。「ふだん市場に並ばないガッツリ肉系のオレたちを呼んでくれて嬉しいです!」と気合いの入った圧巻の演奏力で会場全体をのみこんでいった。フジファブリックはキレのある鍵盤とギターが重なり合う絶妙のアンサンブル。心に沁みる叙情性と逞しさが共存し、今年で10周年を迎えたバンドの懐の深さを実感。お待ちかねのスピッツは昨日と同じく「チェリー」から始まり、会場全体にエバーグリーンな輝きを振りまいていく。草野が「ロックロック」と言えば、みんなが



フジファブリック

「こんにちはー!」と返すお約束のコール&レスポンスも挟みつつ、「ホントに幅の広い“ロックロック”ならではのメンツを楽しんでいただけましたか?」とやさしく声をかけ、攻撃力ある一面を凝縮したような「迷子の兵隊」で競演陣に負けじと刺激的に迫る。恒例のカバー曲にはPUFFYの「アジアの純真」を。後半戦はヒートアップして畳み掛け、アンコールでは「運命の人」であたたかい余韻を残した。毎年、変わらない安心感と同時に新鮮な出会いも用意してくれているこのイベント。最後に、「間近でカッコイイバンドのエキスを吸ってエネルギーをもらった」というようなことを話していたのはベースの田村だが、スピッツのメンバー自身も年に一度の貴重な競演舞台でリフレッシュされている様子。草野は18回も続けられたことをみんなに感謝し、「まだまだ続けていきたいと思えます!」と力強く締めた。今年も熱いライブはもちろん、各出演者との軽妙なトークタイムなども盛り込まれ、趣向を凝らした2DAYSでスピッツとロックファンを存分に楽しませてくれた。

Writing by Amy Nonaka Photo by Ohagi



チャラン・ポ・ランタン



ROCK ROCK KONNICHIWA Ver.18 - ICHIBA ROCK - 9.25 / 26 2014 at Zepp Namba